



≪教育目標≫ 心身ともに健やかで、自ら学び、自分らしく輝ける児童の育成

— 豊かな学びの実現、児童が安心して学べる学校づくりを通して —

〔キャッチフレーズ〕
学び合い **みがき合い**
心わくわく **六小の子**

〔キーワード〕

自立（児童）
傾聴（教職員）

組織目標

一人一人の居場所づくりと成長が実感できる教育活動の創造

《目指す学校像》
 ◇ 生き生きと活動する学校
 ◇ 安全で美しい学校
 ◇ 地域に開かれた学校

＜スローガン＞：まごころと感動～ 行かなければならない学校から、行きたくなる学校へ

《目指す児童像》
 ◇ よく考える子
 ◇ 仲よくする子
 ◇ たくましい子

《本校の課題》
 ◇ 自己有用感の育成
 ◇ 学力・学習習慣の確立
 ◇ 体力・運動能力の向上

《学校経営の重点》
 ◇ 協働的に実践する学校
 ◇ 組織的に展開する学校
 ◇ 創造的に躍動する学校

六つの花びら～ 自己有用感の育成 —いじめの未然防止—

- (1) 互いに学び、伸ばし合い、学ぶ楽しさや喜びが実感できる授業づくりに努めます≪知≫
- (2) 温かい学年・学級経営を基盤とした道徳教育、特別活動の充実を図ります≪徳≫
- (3) 運動に親しむ場の充実を図り、健やかな体の育成を図ります
- (4) 危険予知能力と危機回避能力の育成を重点とした保健・安全指導の充実を図ります } ≪体≫
- (5) 保幼小中連携を推進し、幼児教育と小学校教育、中学校教育との円滑な接続を推進します≪連携≫
- (6) 学校、家庭、地域との連携を図り、信頼される学校づくりに努めます≪開かれた学校づくり≫

《目指す教師像》
 ◇ 温かく人間性豊かな教師
 ◇ 健康で熱意のある教師
 ◇ 指導力と実践力のある教師

≪知≫「よく考える子」を育むために

【主な取組】

- 豊かな学び（試行錯誤、アウトプット、振り返りの重視）の実践
 探究的な学びの充実とプレゼン力の育成
- ICT の積極的な活用
- 読書の習慣化

【数値目標】

- ◇ 算数の授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、
 自分から取り組んでいる：90%以上（R6 86.7%）
- ◇ 授業における ICT 活用率：全授業の 50%以上
- ◇ 読書目標達成率 50 冊賞：90%以上（R6 86.7%）
 300 冊賞：25%以上（R6 20.4%）

≪徳≫「仲よくする子」を育むために

【主な取組】

- 「考え、議論する道徳」の実施
- 全員で協働して取り組む学級活動の実施
- 人権感覚を身に付け、人権意識を育む人権教育の実施

【数値目標】

- ◇ 友達と仲よく、学校で生活している：96%以上（R6 95.8%）
- ◇ 自分をよりよくしたい気持ちをもつ：92%（R6 90.3%）
- ◇ 「特別の教科 道徳」の授業公開：年 1 回

≪体≫「たくましい子」を育むために

【主な取組】

- わかりやすい体育授業
 （モノ・ひと・場所・ルールの工夫）、体育的行事の充実
- 保健教育、食育指導の充実（養護教諭・栄養教諭との連携）
- 防災・防犯教育の充実：「自分の命を自分で守る」意識の育成

【数値目標】

- ◇ 明るく元気に学校生活を送っている：95%以上
 （R6 92.5%）
- ◇ 体力テスト A+B=50%以上（R6 44.1%）、
 D+E=25%未満（R6 31.4%）

≪研究主題≫ 自分の思いや考えを伝え合う力を育む算数科学習指導の在り方
 — 単元の内容や時間のまとまりを見通し、指導過程を工夫した授業づくりを通して —

≪研究推進委員会≫

研究の視点

- a 児童がめあてを意識して取り組み、そのめあてを達成することで、資質・能力を育成
 できる授業づくり（授業のゴールを明確にした指導）
- b 単元全体の見通しや系統性を大切にした指導の重視
- c めあての明示や発問の仕方、協働や振り返りの場の設定等の指導過程の工夫

≪特別支援教育の推進≫

- 特別な教育的ニーズを必要とする児童の実態把握と
 個に応じた指導の充実
- ・「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成と活用
- 合理的配慮の提供（本人・保護者との合意形成）
- 授業のユニバーサルデザインと環境調整
 ・「焦点化、視覚化、共有化」

≪連携・開かれた学校づくり≫

- 保幼小中連携の推進
- 「オルゴールの会」による読み聞かせの実施
- 学校運営協議会の効果的な運営
- 地域学校協働活動の推進
- 学校評価の有効活用（年 2 回実施）
- 教育活動の積極的な情報発信
 （HP、学校便り、保健便り、図書便り等）

＜働き方改革の推進＞「教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、学校における働き方改革を進めます」

働き方改革推進委員会と校内組織が連携して、勤務時間外在校時間、月 45 時間内・年間 360 時間内を目指す

- 毎週水曜日を 5 時間授業とした教材研究及び事務処理等の時間確保
- 学校行事や集会活動の持ち方の工夫と精選
- 毎週水曜日を定時退勤日とした定時刻退勤の推進
- 職員会議等の効率化と各種会議の精選